

平和と
ジュゴンを守る
コンサート

NO BASE @ HENOKO
APPEAL CONCERT IN NAGOYA
Since 2015

NO BASE @ HENOKO
APPEAL CONCERT
IN NAGOYA vol.33

第33回 辺野古新基地 反対コンサート in名古屋 2023

12/17 (SUN) 11:00~

@労働会館 東館2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7

入場料:500円
(中学生以下、及び障がいのある方は無料)

【出演】

- 11:05 アフガンプルー
筒井 ケイコ with Kanbe
屋台の珈琲
- 12:05 宇野バンド
まっすん(増田 俊道)
@ilis(アイリッシュ)
- 13:05 モリヒデヤ
KEEP TO THE LEFT
歌のおじさん
- 14:05 ポップ&ガーリー
のりっくすファミリー
うな武
- 15:05 工藤 秀樹
川口 真由美
わや
- 16:05 兵戈無用ブルースギルド
子どもに笑顔を
~ひらき座チンドン隊
古川 斉
- 17:05 ひじやん
LOVE & PEACE+SHARE
保母 則之
- 18:05 出前ユニット ぽこあぽこ



沖縄県民の民意を無視し、希少なサンゴとジュゴンの海を破壊して、
辺野古に新しい基地が作られようとしています。
また、高江でもやんばるの森を潰し、住民生活を脅かすヘリパッド建設が強行されました。
これは、名古屋を中心に活動するミュージシャンたちが、
『ここから、今こそ、一人ひとりが反対の声を挙げよう』と呼びかけるコンサートです。

■主催：「辺野古新基地反対コンサートin名古屋」実行委員会
実行委員長：浅野義高 事務局：神戸郁夫
実行委員：加藤結姫・杉山道子・知念和子・筒井佳子・中島清志・福井啓子・保母則之・山口耕平

■問い合わせ：神戸郁夫 E-mail: kanbe@pop02.odn.ne.jp
ウェブサイト(ブログ)：http://henocn.blog.fc2.com / Facebookページ：『名古屋辺野古』



南西シフト』～琉球弧の自衛隊配備

「台湾有事」「戦う覚悟」…「新しい戦前」 ～沖縄を再び戦場にさせない!!

今、南西諸島(琉球弧)では、次々に着々と自衛隊配備が進められている。

昨年未、政府は何ら国会での議論や承認を得ることなく『安保三文書』を閣議決定し、憲法の理想から逸脱した防衛政策の大転換を行った。そして、実体のない「台湾有事」が叫ばれ、首相経験のある与党幹部が「戦う覚悟」が必要、などと妄言を吐く。

地域活性化や、災害や医療への緊急対応などの住民の期待とは裏腹に、その後丁寧に十分な説明もないまま、基地機能は「変化」し「強化」され、住民の不安は広がり、地域の軋轢、分断が進んでいく。「日米地位協定」により米軍は自衛隊基地を自由に使い、自衛隊もまた「共同/合同」の名の下に…。かつて沖縄戦において軍隊は住民を守らなかった。

自衛隊も「有事」の際に住民保護の余裕はない、と明言している。

琉球弧の美しい島々とそこに暮らす人々を守らねばならない、沖縄を二度と戦場にしてはならない!

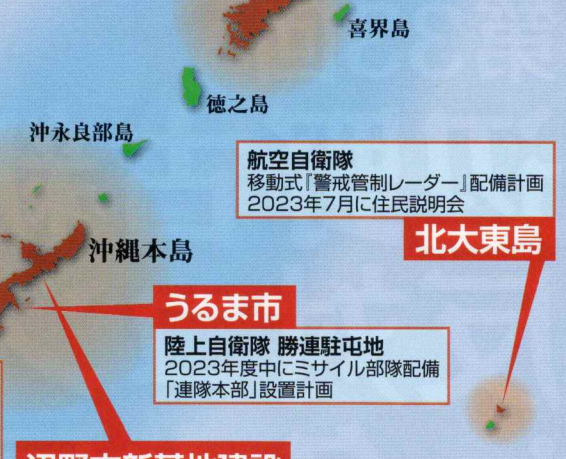
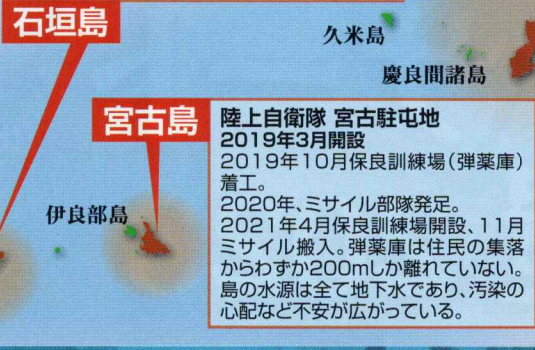
航空自衛隊 馬毛島基地(仮称)
2023年1月着工
米軍艦載機の陸上離着陸訓練(FCLP)用の滑走路を整備。自衛隊の水陸両用作戦の訓練や、補給機能を備えた重要拠点となる。
6000人の作業員を投入し、急ピッチで建設が進み、工事費も当初より倍増。
島周辺は優良な漁場であり、絶滅の恐れのある「マゲジカ」が生息するなど、環境への影響が懸念されている。



奄美大島 陸上自衛隊 奄美駐屯地/瀬戸内分屯地
2019年3月開設
地对艦および地对空ミサイル部隊配備。
電子戦部隊、射撃場、地下トンネルを含む大規模弾薬庫など。

陸上自衛隊 与那国駐屯地
2016年3月開設
日本最西端の(台湾に最も近い)駐屯地。
沿岸監視隊を配備し、情報収集。
2022年11月、日米合同演習(キーンソード)では住民の反対を押し切り「16式機動戦闘車」が初めて公道を走った。
また敵ミサイル攻撃を想定した初の「住民避難訓練」も行われた。
2023年1月にはミサイル部隊配備が決定。

陸上自衛隊 石垣駐屯地
2023年3月開設
「12式地对艦誘導弾」(ミサイル)を配備。
2018年、自衛隊配備の賛否を問う「住民投票」を求め住民の4割にあたる1万4千筆の署名が集まるも市議会が否決。
翌年、実施を求めて提訴するも最高裁で敗訴。
2019年3月の着工の際、環境アセスメントは実施されておらず、駐屯地周辺は島の水源地となっており、影響が心配される。



なぜ辺野古や高江の米軍基地建設に反対するのか?

世界中で戦争するアメリカの軍事基地は、戦争の拠点であり(そもそも)「作ってはいけない」。
沖縄に今ある米軍基地は「銃剣とブルドーザー」で強制的に作られたもの。
沖縄からすすんで基地を提供したことなど一度もない。
普天間の移設先というが、奪った土地を返すのに、なぜ沖縄の別の土地を差し出す必要があるのか。
「やんばるの森」や「大浦湾のサンゴ」など、世界的にも貴重な自然を壊してはいけない。
選挙で何度も反対の意思を示しているのに、それを無視しての一方的な強行はあまりにも理不尽。
機動隊や裁判所(高江のスラップ裁判、山城博治氏への不当判決など)の蛮行を許せば、沖縄だけでなく今後全国で「国のやりたい放題」になってしまう。
このような政府を選んだのは、本土の私たちでありその責任は大きい。

中縄のたたかいに想いを寄せ、共に「うたう」

沖縄の基地の問題は日本全体、本土の私たちの問題であり、他人事ではありません。
沖縄の今は、本土の明日です。
沖縄の闘いは「非暴力・不服従・直接行動」です。
特に「直接行動」が他の運動とは違うところで、沖縄では米軍の占領時代から「座り込み」で闘ってきました。
座り込みや集会には必ず歌があり、音楽や踊りがあります。
3月4日は「サンシンの日」で、ゲート前で大勢で三線を弾きます。

辺野古新基地建設

工事計画(変更申請)概要と進捗

護岸工事
 - 施行済み (Red line)
 - 未着工 (Blue line)
 - 計画変更 (Orange line)

地盤改良工事
 - SCP工法 (Green area)
 - SD工法 (Purple area)
 - PD工法 (Blue area)

軟弱地盤(最深90m)

埋め立て区域①
 埋め立て区域②-1
 埋め立て区域②
 埋め立て区域③-1
 埋め立て区域③-2
 埋め立て区域③-3
 埋め立て区域③-4
 埋め立て区域③-5

中仕切(傾斜堤)護岸
 キャンプ・シュワブ
 N2護岸完成
 土砂用陸揚棧橋化
 揚土場N-1
 揚土場N-2
 埋め立て区域③-4
 K8護岸延伸 棧橋化

埋め立て区域②「陸地化」完了
 ~「仮置」土砂搬入?!

「承認は困難」～不当な最高裁「判決」、そして遂に『代執行』訴訟へ

9月の最高裁「判決」を受けても、やはり「承認は困難」と回答した玉城知事に対し、国は「勧告」「指示」と立て続けに迫り、それでも応じないため、遂に10月「代執行」のための訴訟を起こした。重大な局面を迎えた法廷での闘いは、工事の「公益性」を巡って争うと言われている。

「米軍廃棄物」残留問題の解決なくして自然保護などあり得ない!!



NO BASE! NO WAR!
勝つ方法は、あきらめないこと!

photo by Jiro Iha